

○台風13号情報（9月6日12時現在）

台風12号に続いて、台風13号が6日9時に台湾の東海上（宮古島付近）で発生しました。12号に続いて、沖縄本島の南西海上で発生するのは珍しく、今年の台風の発生場所と進路は、異例づくめになっていると言えます。

台風13号の特徴、進路、宮崎地方への影響を解説します。

1 台風13号の特徴

（1）規模・強さ

台風としては、小型ですが、12号より規模がやや大きいレベルです。強さは、現在最大風速18mですが、今後発達しながら九州のすぐ南海上に達する頃には、992hPaで最大風速25mになる見込みです。

その後、さらに発達しながら四国沖から関東地方に向かいますが、その頃には985hPa前後、最大風速30mで暴風圏が出てくる見込みです。

このように発達しながら日本に接近してくるのは珍しいケースになりますが、原因としては、同じコース上の海面を流れている黒潮の影響と考えられます。

（2）今後の進路・速度

気象庁の予想では、12号とは異なり、13号は速いスピードで九州の南海上に進んで来ます。

そのため、九州地方は、南部を中心に明日（7日）朝から影響があり、昼前後がピークとなる見込みです。

（3）宮崎への影響

13号は、現在の予想進路であれば、九州の南、種子島付近を通過することになり、進行方向の西側に位置するため最悪の事態は避けられそうです。

しかし、発達しながら通過するため、宮崎県の南部地方の沿岸部が風の影響を受けやすくなります。暴風まではありませんが、最大風速10～15m、最大瞬間風速20～25mの強風が吹く可能性があります。

雨は、今日の夕方から明日未明が最も降りやすくなりますが、大雨レベルではなく、明日昼までに、これまでの雨量に加え、南部沿岸部で50～70mm程度、その他の地域で30～50mm程度と予想されます。

このように、現在の予想進路であれば、宮崎地方へ影響は12号と同じレベル程度と予想されますが、進路が北寄りになり、台風の中心が宮崎地方を通過する場合はかなり影響が出てくることになりますので、最新の情報を入手してコース、勢力、最大風速、雨量の予想を把握してください。